

施肥 有機質・土壌改良剤・化学肥料など（購入の場合はメーカー名記入）

<土づくりの使用資材・肥料について>

商品名	原料	メーカー(購入先)	全成分					有機率(%)	使用目的	計画				実績			
			N%	P%	K%	Ca%	Mg%			使用量	使用時期	回数	化成窒素kg	使用量	使用時期	回数	化成窒素kg
産直有機入り683			6	0	8	3		100	元肥	200				160	9/1	1	0.0
オーガニック742			7	0	4	2		100		2L							
メリット青		生科研	7		4	3				2L			0.1				
カキライム	カキガラ石灰			0				100	元肥	200							
堆肥	稲わら、もみがら、家畜糞尿																
苦土石灰													160	9/1	1	0.0	

【慣行農法との比較】

*化学肥料

産直有機入り683	5	削減
化学肥料	窒素使用量 (kg/10a)	
慣行使用量	28	
計画使用量	10	

*節減対象農薬

当地区	5	削減
節減対象農薬	計画回数	地域の慣行防除
土壌消毒剤		
除草剤		
殺虫剤		
殺菌剤		
その他薬剤		
合計	8	18

病虫害の防除 使用した天然防除資材・自作資材・農薬（成長調整剤、屋着剤等を含む）

分類	商品名	原料/成分名	メーカー(購入先)	使用目的	計画				実績				使用量/10a		
					希釈倍率	使用量	使用時期	回数	カウント	希釈倍率	使用量	使用時期	回数	カウント	商品
殺菌	硫黄粉剤50	硫黄		うどんこ病、ハダニ類		3kg				3kg	11/21	1	0	-	-
殺菌	イオウフロアブル	硫黄		うどんこ病、ハダニ類	500~1000	-								-	-
殺菌	サンクリスタル乳剤	脂肪酸グリセリド		アブラムシ類、コナジラミ類、ハダニ類、うどんこ病	300~600	150~500L								-	-
殺菌	ハーモメイト水溶液	炭酸水素ナトリウム		灰色かび病、さび病、うどんこ病	800~1000	150~300L								-	-
殺虫	バダシSG水溶液	カルタップ		ナモグリバエ、ウラナミシジミ	1500~3000	150~300L			3000	300L	3/14	1	1	3	3
殺虫	アフーム乳剤	エマメクチン安息香酸塩		ハスモンヨトウ、ハダニ類	2000	150~300L			2000	70L	9/25	1	1	2	2
殺虫	コテツフロアブル	クロルフェナピル		ハスモンヨトウ、ハダニ類	2000	150~300L								2	2
殺虫	プレバソフロアブル5	クロラントラニプロール		ハスモンヨトウ、ハモグリバエ類	2000	150~300L			2000	200L	10/12、11/2	2	2	3	3
殺菌	セイビアフロアブル20	フルジオキシニル		菌核病、灰色かび病	1000	150~300L								3	3
殺菌	アフェットフロアブル	ベンチオピラド		菌核病、灰色かび病、さび病	2000	150~300L			2000	300L	1/11,3/18	2	2	3	3
殺菌	アミスター20フロアブル	アノキシストロピン		菌核病、灰色かび病、褐紋病	2000	150~300L			2000	300L	11/2,12/3	2	2	3	3

備考:

肥料は、リストの肥料の中から使用します。他の有機質肥料は各圃場に合わせて施用します。化成窒素量10kg/10aまでとします。(部会基準)
農薬は、リストの農薬の中から、8回以内に抑えて使用します。

実績は、小川卓也さん(23a栽培)の3/18現在のデータです。
化成窒素は0kg、節減対象農薬は 8回です。

	計画(作業、施肥、防除など)	実績(作業)
1月	ネット張り、播種、収穫	ネット張り、播種、収穫
2月	誘引、収穫	誘引、収穫
3月	収穫	収穫
4月	収穫	収穫
5月	収穫	収穫
6月		
7月		
8月		
9月		
10月		
11月	播種	播種
12月	播種、収穫	播種、収穫

耕起開始:	平成28年10月上旬
終了:	平成29年1月下旬
播種開始:	平成28年11月上旬
終了:	平成29年2月中旬
定植開始:	-
終了:	-
収穫開始:	平成28年11月中旬
終了:	平成29年5月上旬